

「子どもの権利条約って何？」ワークショップを開催

町田市では今、(仮称)「子どもにやさしいまち条例」が検討されています。これは、1994年に批准された「子どもの権利条約」の町田版と言えるものです。そこで町田・生活者ネットワークでは、「子どもの権利条約」について改めて学ぼうと、林大介さん(浦和大学准教授)を招いて、ワークショップを行いました。

ワークショップでは、一人の子どもの写真を題材に、その子の「やりたいこと」「やりたくないこと」「将来の夢」などを具体的に想像し、皆で出し合いました。そのあと、



それらを「●生きる権利 ●育つ権利 ●守られる権利 ●参加する権利」に分類していきました。4つの権利の重要性が深く心に残りました。

介護家族の支援に携わって15年、井上宮子さんに聞く

玉川学園にお住いの井上さんはお母様の介護の経験から、地域の人と「介護家族がホッとできる場づくり・信頼づくり」に取り組んできました。まず近所の賃貸アパートを借りて拠点を作りました。現在は地区社協交流室を借りての図書コーナーや男性介護者のつどい、早朝散歩、またデジタル社会に向けてシニア・スマホボランティアの育成とスマホ相談日を設けるなど、先駆的な企画で地域のつながりを広げています。会のお便りを自転車で配達しながら地域の人と情報交換をし、ネットワークの種まきをしています。まさに



ケアラー(家族介護者)支援を体現されてきた方です。「地域のニーズを拾うことが何よりも大切」という井上さんの言葉を私たちの活動に活かしていきます。

野津田公園、上の原原っぱで、9月17日生き物観察会

(協力：野津田雑木林の会)



野津田公園のように生物の種類が多い良質の原っぱは、他ではなかなか見られないということでした。これからも観察会を続けながら、多様な生物が残る環境を守っていきます。

町田・生活者ネットワークは生活クラブ運動グループ町田市地域協議会と共同で毎年、生き物観察会を実施しています。今年は「どんぐり工房」主宰の仁井雄治さんを講師に、虫捕り網を振り回し、つかまえたチョウやバッタを観察しました。コオロギ、ササキリ、キリギリス、クルマバッタ、ツチイナゴなど30種類以上を確認し、放しました。仁井さんによると、植物はもとよりこれだけの虫たちが生きている環境が都内では珍しくなっており、雑木林はあっても、

新しい働き方・働く場を作るために模索中

コミュニケーションが苦手だったり、効率最優先の職場になじめない人など、就労に困難を抱える人たちがいます。そこで、**ともに働くことができる事業所の開設をめざして実行委員会が立ち上がりました。**

実行委員会のメンバーは、府中市の車返団地で片付け事業とリサイクルショップを営む共同事業所「よって屋」を見学しました。



片付け事業では、高齢者等のお宅に伺い、本人の気持ちに寄り添いながら丁寧に分別し、再利用できる物はリサイクルショップで引き取ります。石けんや重曹を使って環境に配慮した清掃も行っています。リサイクルショップでは寄付された衣類、食器、雑貨、小型家具等を販売しています。

このような事業所を町田でも立ち上げることができないか、実行委員会で模索しています。

国葬NO!



原町田大通りで毎月行っている性暴力反対アピールと共に、元首相の国葬反対を訴えました。

町田市長・教育長あてには、「国葬及び国葬儀に反対し、吊旗掲揚や黙とうを求めないことについての要望書」を提出しました。

町田・生活者ネットワークの…

議員は交代制

議員は議員報酬の一部を生活者ネットワークに寄付し、市民の政治活動に活かします

選挙はカンパとボランティアで郵便振替口座 00170-1-411651 町田・生活者ネットワーク

カンパを
受付中です!

